

羅臼の野生生物：空

大型の絶滅危惧種であるシマフクロウやオオワシから、ハシボソミズナギドリや小型のよく鳴く鳴き鳥の大きな群れまで、知床の空には、1 年を通して、さまざまな鳥類が舞っています。知床半島は鳥類にとっても野鳥観察家にとっても聖域であり、羅臼へ訪れた際には、森でのハイキングや海を見渡す展望デッキからあらゆる野鳥を観察する機会が待ち受けています。

海鳥

毎年冬に根室海峡へ流れてくる流氷には、オオワシやオジロワシといった大型のワシがついてきます。冬のバードウォッチングツアーでこれらの鳥を見てみましょう。初夏には、何千羽ものハシボソミズナギドリが東南部オーストラリアの繁殖地から根室海峡へと集まってきます。ここを訪れた際は、クジラの見える丘公園の展望台から鳥を観察することができます。

森や山の鳥

知床は、絶滅危惧種であるシマフクロウの高い密度を支えています。保全に焦点を当てた規制のおかげで、この大型鳥類は巣作りのための安全な場所と安定した食料源を確保することができます。知床の山では、ギンザンマシコやホシガラスがハイマツを食します。秋には、ホシガラスが、岩の割れ目などに松かさの種を蓄えて冬支度を始めます。羅臼岳の頂上を目指してトレッキングするときには、2 つあります。

鳥のさえずりの森

2 つある望郷の森トレッキングコース中の一部の森は、「鳥のさえずりゾーン」に指定されています。ヒガラやキビタキのさえずり、アケガラのコッコツという鳴き声、ツツドリの特徴的なさえずりを、ここでは聞くことができます。